

ぼくのせがのびたら

鶺鴒うがい 一有いちゆう

ぼくとおじいちゃんの目のたかさはおなじだ。しんちょう120センチメートルで立っているぼくと、しんちょう165センチメートルですわっているおじいちゃん。

ぼくのおじいちゃんはくるまいすにのっている。足に力がないびょうきで、いえの中でのすこしのいどうはつえをつかうが、ほとんどはくるまいすでせいかつをしている。キャッチボールやサッカーはいっしょにできないけれど、はさみしようぎやおしえてくれる。いまはまだ勝てないけれど、ぼくもずいぶんつよくなった。べんきょうだって、おかあさんはすぐおこるけれど、おじいちゃんはやさしくおしえてくれる。ぼくはおじいちゃんが大好きだ。

いえの中では、くるまいすですイスイといどうしているおじいちゃんだけれど、そとに出かけるときは、ふべんなこともおおい。ぼくがきがつかないくらいのだんさでもくるまいすがすすまなくなってしまうし、いり口にだんがあつたりつうろがせまいおみせにははいれない。「ここならだいじょうぶ」

とおもっても、トイレにですりがないと、やつぱりおじいちゃんにははいれない。

いちど、

「くるまいすでたいへんだね。」

と、きいてみると、

「どんなにこんでいるところでも、ぜったいにすわれるからわるくないぞ。」

と、おじいちゃんがにやりとわらつた。きつたいへんなことは山ほどあるだろうけれどおじいちゃんはぜったいに言わない。

「いちゆうが大きくなるまで、じいちゃんががんばるからな。」

と、きょうもくるまいすでしごとに行くおじいちゃん。

ぼくのせがのびて、目のたかさもおじいちゃんよりたかくなつたら、ぼくがくるまいすおしえて、だんさはないか、あぶないところはなにか、おじいちゃんをまもろうとおもう。おじいちゃん、そのときをたのしみにまっついていてね。いつもありがとう。